

夏休みの自由研究

カタツムリを観察してみよう



アズキガイ

1cmほどのアズキ色の殻を持つカタツムリ

綾ユネスコエコパークは、カタツムリの宝庫。一般的に見られるものから希少なもので、100種類近くも確認されています。その理由は、水や緑が豊富で多湿な気候であることが、カタツムリにとって住みやすい環境だからです。森に入らなくても、公園や庭、役場裏のビオトープなどで幾種類ものカタツムリを見つけることができますよ。夏休みに親子で観察してみませんか。

謎が多いカタツムリ

「でんでんむしむし かたつむり」の童謡でおなじみのカタツムリ。雨の日に外で見かけることが多いのではないのでしょうか。

カタツムリは、誰もが知っている身近な生き物でありながら、実際にどんな生活を送っているのか、どれほどの種類がいるのかほとんど知られていません。雨が多い梅雨から夏の時期は、いろいろな種類のカタツムリをじっくり観察できるチャンスなのです。

カタツムリってどんな生き物？

カタツムリは巻き貝(貝類)の仲間です。貝の仲間は進化の過程でさまざまな種類に分かれ、昆虫類に次いで種類が多いと言われていています。海で生活していた貝類ですが、約5億5千万前に現れたものは陸上で生活するようになりました。陸では空気から酸素を取り込む必要があるため、エラが肺に変化しましたが、やはり

り湿った場所が生活の場となったようです。

カタツムリなどの陸上で生活する貝類は、姿かたちもさまざま。2mmほどの小さなものから7cmを超える大きなものまで、日本だけでも約1千種類が知られています。ちなみにカタツムリの貝殻が退化したものがナメクジで、カタツムリと合わせて陸産貝類または陸貝と言われています。

そして驚くことに、カタツムリの体には、男性と女性の両方の働きをする器官がそろっています。カタツムリが2個体いれば交尾をして両方とも卵を産むことができます。出会いの少ないカタツムリが、無駄なく子孫を残すためにとった作戦と言えます。

身近な場所を探してみよう

カタツムリの生活する場所は、種類によって異なっています。木登りが得意で樹上を好むカタツムリや、森や林の地面を這って暮らすカタツムリ、草むらや開けた場所を好むカタツ



サダメマイマイ



採集が禁止されている宮崎県の固有種



キセルガイ

木の幹や落葉の下、岩陰で見つけることができます



ヤマフルマガイ

円すい形のフタを持っています



ぼくたちはこんな場所に隠れているよ!



雨上がりの神社



濡れた朽木



役場裏のビオトープ

形や動きをじっくり観察

カタツムリをいくつか集めてみると、貝殻の形や色がさまざまであることに気がきます。観察するときは透明のケースやペットボトルに少量の水とともに入れて、いろいろな角度から見てみましょう。図鑑で調べると、それぞれの名前や特徴もよく分かります。写真を撮ったり、絵を描いたりしてみるのもいいですね。

ユネスコエコパークセンターにもカタツムリの資料があります。珍しいカタツムリを発見したら、ぜひ教えてください。

綾ユネスコエコパークセンター ☎77-3482(火曜休館)

参考文献/カタツムリハンドブック 武田晋一・西浩孝著(文一総合出版)、千葉県いきものかんさつガイド 千葉県生物学会(たけしま出版)

ニホンイノシシ

今年のえとでもあるイノシシ。雑食性で、タケノコやドングリなどの植物から、ミミズやヘビといった動物まで何でも食べます。

体はがっしりしていますが性格は非常に神経質で、人の気配

のある場所で昼間に姿を現すことはほとんどありません。しかし、最近では生ごみや畑の作物を狙って人里まで出てくることも多くなり、人との接触が危くされています。

「猪突猛進」と言われる走力とジャンプ力、強じんな鼻やきば

を合わせ持つ身体能力の高さ、そして学習能力もあるイノシシ。こうした野生動物と共生するには、私たち人間側も新しい付き合い方を模索していく必要があります。

